

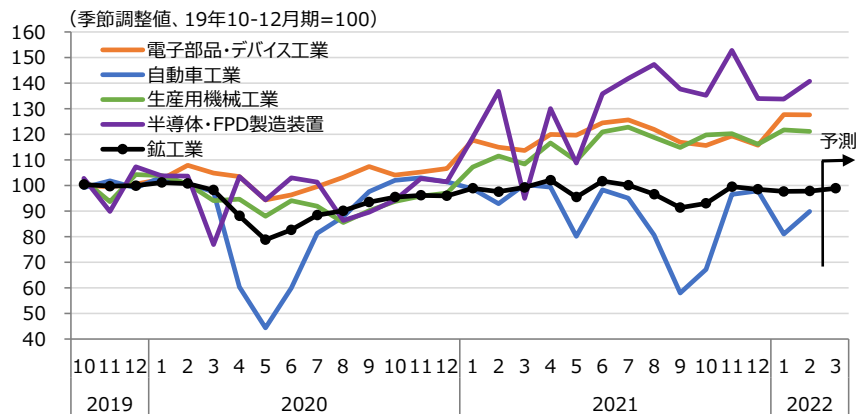
日本

鉱工業指数（2022年2月）

2月の生産はほぼ横ばい、先行きはウクライナ情勢の悪化が重しに

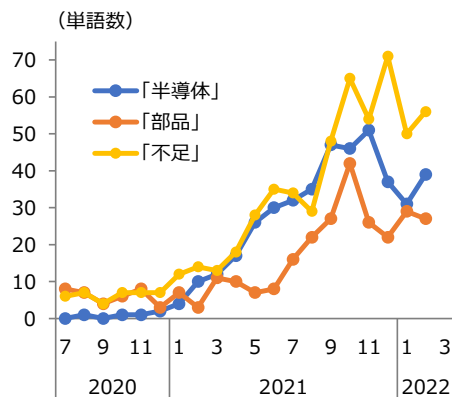
政策・経済センター  
田中康就  
03-6858-2717

## 1 鉱工業生産指数（業種別）



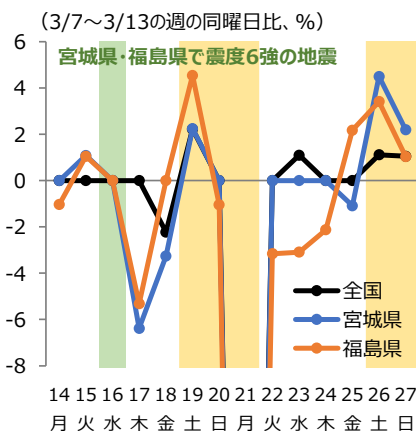
注：FPDはフラットパネルディスプレイ。予測は製造工業生産予測指数を経済産業省が補正した予測値で延長。  
出所：経済産業省「鉱工業指数」「製造工業生産予測指数」

## 2 内閣府「景気ウォッチャー調査」の「半導体」「部品」「不足」の単語数



注：「景気判断理由集（現状）」に掲載された単語数。  
出所：内閣府「景気ウォッチャー調査」

## 3 職場への出勤状況（東北地方）



注：黄色の網掛けは土日祝日を示す。  
出所：Google「COVID-19 Community Mobility Reports」

## 評価ポイント

## 今回の結果

- 22年2月の鉱工業生産指数（速報）は、季調済前月比+0.1%と、ほぼ横ばいでの推移となった（図表1）。
- 業種別では、振れが大きい自動車工業（季調済前月比+10.9%）が大幅に増加し、生産全体を大きく押し上げた。もっとも、19年10-12月期に比べると、依然として10%程度低い水準である。部品・半導体の供給停滞を背景に、減産が続いている模様だ（図表2）。
- 電子部品・デバイス工業（同▲0.1%）はほぼ横ばいとなり、高水準が続いた。
- 製造工業生産予測調査によると、22年3月の生産は前月比+1.1%程度（企業の予測値と実績値の平均的ズレを経済産業省が補正した値）となっている。

## 基調判断と今後の流れ

- 生産指数は持ち直し傾向にあるものの、自動車を中心に一部業種では、部品・半導体の供給停滞が引き続き生産の抑制要因となっている。
- 先行きの生産は、回復傾向の衣服を予想する。3月は、サイバー攻撃による一部企業での生産停止に加え、東北地方で発生した地震が生産を下押しするとみる。被災地域で工場の稼働が停止されたほか、それに伴う部品供給の停滞懸念からその他地域でも生産調整が行われた。もっとも、被災地域の職場への出勤状況は平時に戻つつある（図表3）。地震の悪影響は一時的となろう。
- また、3月以降はウクライナ情勢の影響も顕在化する見込みだ。3月上旬分の財務省「貿易統計」では、輸出入の落ち込みはみられないが、3月中下旬にかけてロシアを中心とする欧州向けの輸出減少や、物流混乱による部品供給の滞り、不確実性上昇による投資姿勢の慎重化などが生産の重しとなる可能性がある。
- 先行きのリスクとしては、ロシア・ウクライナ情勢の深刻化に加え、中国経済の減速が挙げられる。感染拡大を背景に規制が強化され、中国での経済活動が減速すれば、中国向け輸出を通じて生産にも悪影響が及びかねない。